20年間の活動に幕――

ひとつの出会いから、大きく広まったボランティア

アルミ缶を回収して車椅子を贈ろう会

ひとりの少女から広まったアルミ缶収集のことを書いた新聞記事をきっかけに、平成7年5月「アルミ缶を回収して車椅子を贈ろう会」が高根・飯新地区から生まれました。

発足して間もなく、多古町が文部科学省の道徳推進地域に指定されたこともあり、アルミ缶収集のボランティアが小中学校をはじめとして町全体に広がりました。それが他市町村にも知られ、たくさんの方々からつぶしたアルミ缶が届くようになり、この20年間で集まったアルミ缶は重さ約163トン、贈った車椅子は260台に上ります。

「たかがアルミ缶 されどアルミ缶」――。続いてきた会の活動も、保管倉庫の移転問題や会員の高齢化により存続がままならない状態となったため、話し合われた結果、20周年を迎える5月20日をもって終止符を打つことになりました。

インタビュー

活動の終わりに当たり、会員の方に、これまでの想い出などをうかがいました。

畔蒜 榮さん・孝子さん
夫妻（大門）

何かできることはないか――きっかけは「福祉大会」

阪神・淡路大震災（平成7年1月17日）の後、福祉大会に参加して何かできないかと思っていた時に、ちょうどこの活動が始まった頃で、これなら私たちにもできると思ってね。

その頃は、今と違ってアルミ缶は主流じゃなかった。あまりなかったんだよね。だから、成田市・大栄町・芝山町・八日市場市といった周辺で集めて歩いていました。自治会に話をして、ゴミステーションに置いてあるゴミ袋を開けて、アルミ缶を選別するんです。時には、会社の男子寮にももらいに行きました。缶の中から、ゴキブリやハチなんかが出てくることはしょっちゅうだよ。

最初は、周囲の住民から変な目でみられて、「ゴミをちらかすな」って怒られたこともあったよ。逆なんだけどね。だから、怪しい者じゃないってチラシを作って配ったり、周りから見ても分かるように腕章を作ってつけようかと話しをしているうちに、顔見知りになって、そのうち住民の人たちがアルミ缶だけ別に分けて出すようになったり、寒い冬場なんかは、手を温めるためにお湯を用意してくれたこともあったね。

通院している病院にもお願いして協力してもらったり、小学校でも集めてくれたりと、活動を続けていくうちに人との繋がりがどんどん広がって、缶もたくさん集まるようになりました。「みんなの力」だよね。

今の健康はこの活動のおかげ アルミ缶 さまさま！

振り返ると、20年あっという間でした。よく続いたと思います。

みんなで集まって缶をつぶして、トラックに積み込むという作業が、いい運動になるんでしょう。また、作業の後のおしゃべりも健康にいいみたい。この年になってもそれなりに元気でいられるのは、この活動のおかげかもしれません。協力してくれるみんなもいるし、苦しみという感覚はないよね。「アルミ缶さまさま」かな。

これで、この会の活動は終わりになるけど、今まで長く協力してくれた方たちは、アルミ缶はごみじゃなくて資源だと思っているから、「これからはゴミとして出さなくちゃならなくなるな」って言われることもあるね。

感謝をこめて

アルミ缶を回収して車椅子を贈ろう会代表　平山 弘さん

ちですが、寄る年波には勝てません。

私たちが20年間目標にしていた言葉のなかで、特に好きな坂村真民の「念ずれば花ひらく」この言葉通り、私たちのアルミ缶活動も何回も何回も大きな花が開きました。

始めたころはこの会がこんなに大きく広がって、自然体でできるようになるとは思ってもみませんでした。これも町をはじめ、遠くはプルタブを送ってくれた仙台エンジニアリング㈱の皆さんや町内外小・中・高校、近隣のボランティア、町内外の皆さんなど、どれだけのボランティアが関わってくださったのか、つかみようもありません。また、買い取り業者の中田屋さん（稲毛区）や成田メタルさん（成田市）がとても協力的で私たちの空き缶を高く買ってくれたりしました。このように本当に多くの方々にご協力いただいたおかげです。終止符を打つことに当たり、お礼を申し上げたく広報の紙面をお借りしてご報告させていただきます。長い間本当にご協力ありがとうございました。私たち会員一同感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちの団体としては終わりを告げるわけですが、本音を言えば、誰かが活動を継続していただけるならば私たちにとってもこんなにうれしいことはありません。

【お知らせ】アルミ缶の倉庫への持ち込みは4月30日（木）までです。これからも続けていきたいという方に、現在、町内でアルミ缶を集めている団体を紹介します。

●5月20日以降
ひかり学園　☎76-5500

ご協力ありがとうございました

定年を迎えてから始めたこの活動もほとんどの人がもう80歳近くになり、体力的にも何かと無理なことでてきました。缶つぶしはまだまだできますが、アルミ缶の搬出にいたっては8kgから10kgの袋を大きなトラックの高い所へ何百回も投げ入れる仕事はとても大変です。本当はまだまだやりたいのが全員の気持

市町村	台数	車椅子の贈り先
多古町 208台	68	多古町社会福祉協議会（町民貸出用）
	51	国保多古中央病院
	46	多古特別養護老人ホーム
	7	多古ケアハウス
	6	多古町保健福祉センター
	5	第1ひかり学園
	5	第2ひかり学園
	5	デイサービスセンター和
	4	多古町コミュニティプラザ
	4	多古町役場
	2	グループハウス陽だまりの家
	1	道の駅多古
	4	その他
香取市 25台	2	グループホーム山里
	2	おおくすの郷
	11	杜の家
	8	たすけあい
	2	栗源デイサービスセンター
神崎町	2	特別養護老人ホームじょうもんの郷
匝瑳市 9台	5	そうさぬくもりの郷
	2	特別養護老人ホーム太陽の家
	2	県立八日市場特別支援学校
横芝光町	9	東陽病院
旭市	2	癒し処おはな
成田市 5台	3	特別養護老人ホーム有楽苑
	2	デイガーデン萩
合計	260	

贈った車椅子…… 260台
集めたアルミ缶…… 162,573kg
アルミ缶の代金…… 11,602,788円
※平成26年末

ペコン、ペコン、ペコン――
いい汗かいて、気持ちいい
ペコン、ペコン、ペコン――
楽しいおしゃべりに缶つぶし
耳をすませば
きっとどこからか聞こえてくる
缶つぶしの音
この開いた花から、また次へと
続くことを願って――